



# 西区地域福祉保健計画



平成17年3月  
西区地域福祉保健計画策定委員会  
西 区 役 所

## 区制60周年記念・西区地域福祉保健計画 絵画・作文コンクール

小中学生に西区地域福祉保健計画を伝え、計画づくりに参加する機会とするとともに、区制60周年を一緒に祝うため、「60年後の私たちのまち・未来の西区（住み続けたい西区）」をテーマとした絵画・作文コンクールを実施しました。絵画コンクールは、小学校4年生以上の児童から497点。作文コンクールは、中学生から165点の応募がありました。最優秀賞各1点を選定し、絵画は計画書の表紙に、作文はこのページに掲載しました。

### ◇ 絵画コンクール最優秀賞作品（表紙の絵画）

題名：『虹より高い西区へ』 横浜市立富士見台小学校 6年 <sup>かわしま</sup>河島 <sup>なおこ</sup>尚子さん

### ◇ 作文コンクール最優秀賞作品

#### 2064年にワープ

横浜市立西中学校 3年 <sup>はむろ</sup>羽室 <sup>ももか</sup>桃香さん

私は今、中学生の姿のまま私の思い描く2064年の西区内の西区役所の前に立っています。相変わらずランドマークが私たちを見下ろしているのが見えます。ランドマークが建っている方には、高いビルやおしゃれな建造物が前よりも増えたようです。

しかし、こちらの方は、みなとみらいとは反対に緑が増えたようです。以前は公園や学校の中と街路樹くらいしか緑が目立ちませんでしたが、あちらこちらに木が立ち、花が咲き誇っています。そのおかげで道路は狭くなったようですね。しかし、なぜか歩道は広くなったような気がします。歩いてみると段差が小さなものまでなくなっています。どうやら車椅子の方が通りやすいようになったようです。

では、地区センターに行ってみましょう。中に入るとお年寄りや子どもたちの姿がよく目立ちます。お年寄りが子どもたちに囲碁や将棋のアドバイスをしています。この光景は、2004年から変わりませんね。ところで、地区センターへ行くために歩いているときに思ったのですが、地区センターの小規模版のような建物がいくつか新しく建っていました。どの建物の中にもお年寄りと子どもたちの姿が目立ち、子どもたちがお年寄りから昔の話を聞いたり、昔の遊びを教わったりしてとても楽しそうです。お年寄りと子どもたちが触れ合える環境が増えたようです。そんな建物の中に集まるたくさん子どもたちは、学年や学校に関係なく遊んでいるようです。お年寄りが間に入ることで、以前よりも子どもたちの壁が薄くなったのではないのでしょうか。

区内のたくさんの駅に行ってみました。どの駅にもエレベーターが必ずついていて、バリアフリーになっていました。

みなとみらいは近代的でおしゃれな感じがしますが、みなとみらい以外の場所は緑が多くてのどかな感じがします。西区は二種類の顔を持つようになったのですね。心なしか、道行く人々の顔が生き生きしていたり、楽しそうだったりしています。

いち早く細かいバリアフリーを施して、人口の多くを占めるお年寄りとこれからの西区を背負う子どもたちが楽しく過ごせる環境がばっちり整っている西区は、今では「笑顔が日本一多い街」と呼ばれるようになっていました。

## 「㊦こやか ㊧あわせ ㊨らしのまちプラン」の 策定にあたって

2年間にわたる計画の策定作業を無事終えることができました。委員会では、一人でも多くの委員が発言できるよう、グループ作業を中心に進めてきました。委員の皆さんの負担は大きいものであったと思いますが、生活者の視点に立った計画となったのではと思っています。

この策定作業をとおして、行政をはじめとする地域に関わる関係機関・団体との協働と相互理解を深める中で、日々の生活の場である地域と向き合い、抱える問題や取り組むべき課題について話し合い、検討してきました。

今、私たちが愛着をもって大切にしたいと願っている地域（西区）を胸を張って次世代に引き継ぐために、「考えること」「行動すべきこと」「目指すべき目標」について、様々な立場からのご意見やご指摘を踏まえてこの計画をまとめました。

福祉・保健サービスの利用者をはじめ、すべての区民にとって快適で安心・安全な街づくりの実現は、この計画の具体化に向けた取組みを担う私たち（区民）の日々の生活にかかっています。「㊦こやか ㊧あわせ ㊨らしのまちプラン」が新たな地域づくりへの道標（みちしるべ）になることを策定委員一同心より願っています。

西区地域福祉保健計画策定委員会委員長 大溝 茂

## 「区民の皆さん一人ひとりへのメッセージ」

「㊦こやか ㊧あわせ ㊨らしのまちプラン—西区地域福祉保健計画—」が完成しました。この計画は福祉保健活動を担っている方はもちろん、福祉保健分野以外の方からも広く参画いただきました。多くの方にご参加いただいたワークショップでは、参加した一人ひとりが、互いに知り合い交流することで、地域の重要性を再認識し、地域づくりを推進するきっかけになったのではと思っています。冊子の表紙の絵や巻頭を飾る作文についても、若い皆さんからのメッセージが発信されています。区民の皆さんにこれだけ丁寧に考え、取り組んでいただいた点は西区の特徴として自慢できることです。皆さんにご協力をいただきましたことを厚くお礼申し上げます。

計画の一つひとつの取組みをあらためてみると、各場面で様々な発信をしていただいた皆さんのお名前が浮かんできます。今まで、地域の中で子どもの障害のことを話せる場面がなかった方が初めて思いを伝え交流につながったこと、近所のお年寄りが薬の飲み忘れがないよう毎日確認をしたり、ごみ出しをお手伝いしたことなど。計画推進の主役は地域に住んでいる区民の皆さんです。そういう意味で、これは「皆さん自身の行動計画」であり、「地域相互の支援行動計画」です。今、私たちは地域づくりに向け【スタートライン】に立っています。地域組織、各団体、商店街、事業所、学校、そして行政が、それぞれの役割と責任を果たしながら、地域を舞台に「にこやかで、しあわせにくらせるまち」を実現していきましょう。

西区長 大場 茂美

# 目次

## 第1章 計画の概要

1 計画の趣旨	5
2 計画の方針	5
3 計画の特徴	6
4 策定の体制と過程	7
5 西区の概要	9
6 計画の基本理念と基本目標	12

## 第2章 基本目標と取組み

1 安全が確保され、安心なまち	21
① 地域全体でサポートを必要とする人を見守る	
② 近隣の人と顔見知りになる	
③ 地域で助けあう関係を築く	
④ マナーやルールを守り、お互いの信頼を深める	
2 活気にあふれ、健康なまち	34
① 自分が健康であるために、健康の意識を高める	
② 共に地域をつくる姿勢を持つ	
③ どの世代も活躍できる場面を持つ	
④ 素直な気持ちで人とつながる	
3 一人ひとりの個性を認めあい、みんなが共存するまち	48
① 地域と接点を持つ	
② 自分からも気持ちを伝える	
③ サポートを必要とする人をありのままに受け入れる姿勢を持ち、支援をする	
④ 障害児は、いろいろな人といろいろなところ（場面）で、多くの体験をする	
4 地域全体がつながりを持つまち	60
① 自分たちの活動を見つめなおす	
② 関係する団体どうしの連携を図る	
③ より広い範囲でのつながりを持つ	
5 子どもが健やかに成長できるまち	68
① 自分のからだを大切にする	
② 良いこと、悪いことの判断力を身につける	
③ 周りの大人は子どもを気にかけて、声かけや見守りをする	
④ 子どもは自分やみんなの子どもとして、みんなで育てる	
6 必要な情報が正確に伝わるまち	80
地域の活動、行政の情報がいろいろな手段で伝わる	

## 第3章 計画の重点戦略

## 第4章 計画の推進と評価

1 計画の期間と評価	91
2 計画の推進・評価体制	91
3 西区社会福祉協議会への期待	92

## 参考資料